

I 2015年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2015年度大学評価結果総評】</p> <p>・該当なし</p>
<p>【2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）</p> <p>・該当なし</p>

II 自己点検・評価

1 研究活動

【2016年5月時点における点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<p>1.1 研究所の理念・目的に基づき、研究・教育活動が適切に行われているか。</p> <p>2015年度の活動状況について項目ごとに具体的に記入してください。</p>
<p>①研究・教育活動実績（プロジェクト、シンポジウム、セミナー等）</p>
<p>※2015年度に実施したプロジェクト、シンポジウム、セミナー等について、開催日、場所、テーマ、内容、参加者等の詳細を簡条書きで記入。</p> <p>【シンポジウム及びセミナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「法政大学エコ地域デザイン研究所 2015年度報告会・シンポジウム」 開催日：法政大学市ヶ谷田町校舎マルチメディアホール 場 所：2016年2月28日 参加者：約50名 内 容：第I部 「エコ地域デザイン研究所、本年度研究活動報告」 第II部 シンポジウム1「水系エコミュージアムとしての法政大学の立地」 第III部 シンポジウム2「水系からみた東京の再生：2020年に向けた課題と展望」 ・エクハルト・ハーン先生講演会（ドルトムント大学名誉教授）「グリーンインフラの展開と都市づくり」 開催日：法政大学市ヶ谷校舎 ボアソナードタワー25階B会議室 場 所：2015年10月19日（月） 参加者：約50名 内 容：グリーンインフラ（GI）は、日本においてもこの8月に国土形成計画に盛り込まれ、国策となった。アメリカやEU諸国からは立ち遅れたものの、急速な盛り上がりを見せつつある。しかし、身近な自治体計画レベルでの展開の姿はまだ見えてこない。ハーン先生の来日を機に、ドイツやEUにおけるGIがどのように都市計画に反映されているか、お話を伺い、日本の取り組みについて意見交換を行った。 ・石川道政（前美濃市長岐阜女子大学客員教授、岐阜県率森林文化アカデミー客員教授）講演会「自然・歴史・伝統産業を活かしたオンリーワンの「美しいまち」づくり-岐阜県美濃市での実践を通して-」 開催日：法政大学市ヶ谷田町校舎 511教室 場 所：2015年5月21日（木） 参加者：約60名 内 容：日本全国の自治体の市長のなかでも最も著名な人物の一人、元美濃市長の石川道政氏を招き、長年にわたるまちづくりの豊かな経験を思う存分、語っていただく。石川氏が1年半前まで市長を務めた岐阜県的美濃市は、長良川沿いに位置し、豊かな自然環境に恵まれると同時に、舟運を活用しながら、和紙の伝統産業を育み（昨年世界遺産への登録実現）、その富の蓄積で素晴らしい町並みを形成してきた。卯建をもつ特徴あるその町並みは、重要伝統的建造物群に指定され、美しい都市景観を誇っている。自然、歴史、伝統産業・文化を現代に活かすまちづくりは、日本の地方都市が目指すべき方向性であり、それを最先端で実現しているのが美濃市、それを牽引してきたのが石川氏である。氏のハード、ソフトの両面に渡る幅広い視点からの講演は、建築、都市計画、まちづくりを学ぶ学生ばかりか、教員にとっても大きな刺激を与えてくれるものと期待される。
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>

・特になし
②対外的に発表した研究成果（出版物、学会発表等）
<p>※2015年度に刊行した出版物（発刊日、タイトル、著者、内容等）や実施した学会発表等（学会名、開催日、開催場所、発表者、内容等）の詳細を箇条書きで記入。</p> <p>【出版物・報告書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陣内秀信・稲益祐太＋法政大学陣内研究室『アマルフィ海岸の地域構造－海と山を結ぶテリトリーオの視点から－』2015年7月31日発行 ・法政大学デザイン工学部建築学科・陣内研究室編『「米国北東部の水都」調査報告書 速報版』2015年9月30日発行 ・法政大学デザイン工学部建築学科・陣内研究室編『「米国北東部の水都」調査報告書』2016年1月12日発行 ・樋渡 彩＋法政大学陣内秀信研究室編『ヴェネツィアのテリトリーオ——水の都を支える流域の文化』鹿島出版会、2016年3月20日発行 ・出口清孝・森田喬 『フランスの交通輸送インフラ整備における地形的要因の指標化』2016年3月31日発行 ・出口清孝・森田喬 『GIS(Geographic Information System)を用いたフランスの気候と農作物マップ』2016年3月31日発行 ・陣内秀信・稲益祐太＋法政大学陣内研究室編『プーリア都市の発展過程と構成原理－コンヴェルサーノを事例として－』2016年3月31日発行 ・法政大学デザイン工学部建築学科岡本哲志研究室『三陸の浜に刻まれた集落空間の仕組みを読み解く～雄勝・女川・牡鹿の67浜を対象に調査を重ねて』2016年2月24日発行 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
③研究成果に対する社会的評価（書評・論文等）
<p>※研究所の刊行物に対して2015年度に書かれた書評（刊行物名、件数等）や2015年度に引用された論文（論文タイトル、件数等）の詳細を箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
④研究所（センター）に対する外部からの組織評価（第三者評価等）
<p>（～400字程度まで）※2015年度に外部評価を受けている場合には概要を記入。外部評価を受けていない場合については、現状の取り組みや課題、今後の対応等を記入。</p> <p>2015年度は、引き続きいくつかの実践的な研究を中心に、堅実な成果をあげることができた。「水都に関する研究」（＝「水都学」）を前面に押し出し、主な研究対象となる東京を地理的、空間的に二つのエリアに分け、＜武蔵野・多摩プロジェクト＞と＜東京都心プロジェクト＞を軸に、活動を進めてきた。</p> <p>＜武蔵野・多摩プロジェクト＞では、日野において児童生徒たちと水辺の案内プロジェクトづくりのワークショップを、旧蚕糸試験場日野桑園第一蚕室（桑ハウス）では文化財登録に向けた取り組みを実施。その他にも、「源流プロジェクト」「府中・多摩川プロジェクト」を実施。</p> <p>＜東京都心プロジェクト＞では、「千代田学」の研究助成を得て「千代田区デジタルアトラスの活用～歴史文化と賑わいの可視化」についての調査・研究、さらに「外濠市民塾」と、「まちふねみらい塾」の活動を実施。今後ともさらにエコ研の水都研究に関する活動を発展させていく所存である。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
⑤科研費等外部資金の応募・獲得状況
<p>※2015年度中に応募した科研費等外部資金（外部資金の名称、件数等）および2015年度中に採択を受けた科研費等外部資金（外部資金の名称、件数、金額等）を箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千代田学「千代田区デジタルアトラスの活用～歴史文化と賑わいの可視化～」2015年4月～2016年3月、2015年度事業額：927,000円 ・境港市「水木しげるロードリニューアル検討模型製作」2015年9月1日～2016年3月11日、015年度事業額：921,175円 ・境港市「水木しげるロードリニューアルの検討（完成イメージ、パース制作）」2016年2月1日～2016年5月31日、2015年度事業額：862,920円

・水都日野・水田保全検討会（都市農地活用支援センター）委託「水・緑の景観エコロジカルネットワーク等の市民への普及啓発手法等検討」2015年9月16日～2016年2月25日、2015年度事業額：1,890,000円

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・<武蔵野・多摩プロジェクト>では、東京の西側ゾーンをその源流域である小管にまで新規に視点を広げ、「水都」の発想を拡大、深化させていくエコ研独自の研究に取り組んだ。 ・<東京都心プロジェクト>では、「外濠市民塾」から派生して、外濠周辺の町会、大学、企業が一堂に会し、地域づくりに取り組む「外濠懇談会」を組織、第一回の開催に漕ぎ着けた。 ・地元との繋がりという点で意味のある活動として、地元のタウン誌『かぐらむら』の編集部から依頼され、その79～83号に、陣内秀信・岡本哲志・高道昌志・石神隆・宮下清栄・福井恒明の面々でリレーエッセイを執筆。 	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・日野プロジェクトでは、これまでの成果を生かしながら、養蚕・絹をテーマに外部資金を獲得し、実践的な活動を伴いながら、より一層盛り上げていくことが必要。 ・外濠プロジェクトもエコ研の柱として据えていく。全国の城下町との比較や、地方城下町を水都の視点(水利、産業、遊び)から評価し、全国的な活動へと繋げていく。 ・次のステップを目指して、新しい構想と意味づけ、そして普遍性を備えた切り口を開拓していくことが求められる。 ・海外との比較は引き続き継続。
--

【この基準の大学評価】

<p>エコ地域デザイン研究センターでは、「環境の時代」を切り開く真の「都市と地域の再生」のための方法の研究を目的として、研究所の理念目的に則した、シンポジウム1回、講演会2回が開催され、また、出版物・報告書も関連研究室編の報告書も含めて定期的に発行されており、高く評価できる。科研費等外部資金も事業内容に合わせ獲得されており、事業全体としてのアクティビティーも感じられる。研究成果に対する社会的評価及び外部からの組織評価については、研究センターとしての具体的な記述が一部不足しているが、プロジェクトの遂行状況および研究対象となる地域との連携も図られており、十分評価対象となっていると判断される。特に、2015年度は継続的な「水都に関する研究」(＝「水都学」)を前面に取り上げ、<武蔵野・多摩プロジェクト>及び<東京都心プロジェクト>を基軸とした活動は、地域からの評価を含め、今後のさらなる発展が期待される。これらの観点から、点検・評価項目に対する事業遂行内容は、概ね良好である。</p>

2 内部質保証

(1) 点検・評価項目における2015年度の現状

2.1 内部質保証システム(質保証委員会等)を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会は適切に活動していますか。

【2015年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

- ・内部質保障に関する各種委員は、運営委員会において適切に活動している。
- ・運営委員会の構成委員は所長・副所長を含め10名の教員であり、議題に応じてはオブザーバーの参加も規定上認められている。運営委員会では各委員からの報告を受け、それに応じて広く議論を行い、質の向上に努めている。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目

・特になし	
-------	--

【この基準の大学評価】

エコ地域デザイン研究センターは、兼担研究員、兼任研究員、研究生、兼担研究員（海外）及び事務局から構成されている。内部質保証に関する各種委員は、所長・副所長を含め10名の教員が担当し、必要に応じて内部質保証に関する委員会が開催されている。また、内部質保証の議題に応じて、オブザーバーの参加も規定上認められており、質保証の質向上の観点から評価できる。また、各委員会からの報告を踏まえた、議論による質保証への取り組みも実践されており、適切であると判断する。

【大学評価総評】

エコ地域デザイン研究センターの理念・設置の目的に基づき、国内のみならずドイツやEUにおけるグリーンインフラの都市計画への反映状況や、日本での自然、歴史、伝統産業・文化を現代に活かすまちづくり等の日本の地方都市が目指すべき方向性を明示するシンポジウムやセミナーも開催し、研究成果及び外部資金の応募獲得実績も良好であり、評価できる。研究成果に対する社会的評価は、外部からの組織評価でも十分行われている。本研究センターの特色の1つである水都研究に関する活動を充実させ、一層の社会への発信力の向上に向けた地域性のある国内外への取り組みが期待される。また、新規外部資金の獲得により、新規分野での発展性への期待も多く、今後の内部質保証のさらなる充実のための検討も併せてお願いしたい。